

令和2年度 お笑い道場

～古典落語を学び、ユーモアセンス・表現力を育てる～

講師 安野家 仁楽齋氏(社会人落語家・フリーアナウンサー)

本物の落語を味わい、扇子の使い方や落語を話すときの視線の配り方、しぐさ等を学びました。お笑い大会では会場にいらっしゃった家族の皆さんに、「小噺」・「折句」や「なぞかけ」などを披露しました。

【1回目】8/1(土) 落語を勉強しよう

最初に先生の自己紹介。落語とは何かということで、先生が小噺を披露。次に子どもたちが高座に上がり自己紹介し、事前アンケートにより、先生が考えた「高座名」の発表がありました。落語に必要な扇子や手ぬぐいが配られ、使い方を教わりました。お笑い大会に発表する「小噺」等について説明があり、次回の宿題として「小噺」を覚えること、「折句」のお題「あさひ」・「すいか」と「なぞかけ」のお題「夏休み」・「ゲーム」が発表されました。



↑初めて高座というものに上がって

【2回目】8/12(水) 大きな声で会話しよう

今回もまず先生がお手本として小噺を一席。次に思えてきた小噺を発表。一人一人高座に上がり、高座名を言ってから発表するのですが、まだ覚えていない子もいる中で、長い小噺を披露する子もいました。先週、先生から宿題として出された、「なぞかけ」「折句」の発表に移りました。「なぞかけ」のお題は「夏休み」と「ゲーム」。「折句」のお題は「あさひ」と「すいか」でした。それぞれが考えてきた話を、メモを片手に発表していました。まだ2回目なので、なんとなくおとなしい様子です。今年はコロナの関係で道場が1回少ないのでこれで、23日の発表大会「お笑い大会」になります。元気で発表してくれることを期待しています。「お笑い大会」のときの「なぞかけ」と「折句」のお題が発表されました。「なぞかけ」のお題は「食べ物・飲み物」、「折句」のお題は「うちわ・たいこ・さくら」です。どんな話が聞けるのか楽しみです。



↑先生の所作指導

【発表会】8/23(日) 発表会「お笑い大会」



↑小噺披露

今年はコロナの関係で、座席の間隔を空け、表情が分かるようにマスクの代わりにフェースシールドを用意しました。保護者の方にも入場制限をして、「密」にならないように座席を配置しました。まず「小噺」から。一人ずつ高座に上がり、高座名を名乗ってから話し始めました。みんなよく覚えてきてくれて、小噺ならぬ、落語に近い長い話をする子もいました。それぞれ表情や話し方に気を付けながら発表していました。次は「大喜利」です。まず最初は「折句」から。お題は「うちわ・たいこ・さくら」です。すぐに子どもたちの手が上がります。今年は個々にマイクを使えないので、先生が一人一人の発表を復唱されました。発表の度に会場の保護者席から「ほーっ!」「ふふふ……」などと声が聞こえ、拍手が起こります。次は「なぞかけ」、お題は「食べ物・

飲み物」です。またすぐに手が上がり、



↑大喜利風景

次から次へと発表が続きます。最後は「あいうえお作文」です。みんなが一番盛り上がる場面です。5人一組のチーム戦です。どんな作文依るかは最後の人が答えるまで分かりません。最後の回答で会場全体が笑いに包まれて拍手の嵐です。採点の結果は紅5点、白7点で、白が逆転勝利しました。先生から「修了笑書」を1人1人に渡されました。最後に全員で記念写真を撮って、今年のお笑い道場は無事に終了しました。無事に終わって良かったです。



↑記念撮影